

ウィズ ～ともに～

WITH



発行：社会福祉法人 くまもと障害者労働センター 〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-5-4 0
TEL：096-382-0861 FAX：096-285-7755 <http://1985orange.com>

またもや『Big Deal』の成立

～国会進出の次は…。そして、今思うこと～

🍊 じんけ

おれんじ村のクッキーが、国会議事堂での販売進出に続き、またもや『Big Deal』が成立!!

次は、なんとお弁当での『Big Deal』が実現。熊本の人ならテレビのCMで必ず聞いたことのある『あげたて♪ あげたて♪ カラカラ唐あげ♪

カラッとおいしい♪ サクッとうれしい～♪…』の歌でおなじみ。

そう、熊本のから揚げの老舗でからあげグランプリ塩だれ部門で何度も金賞受賞の『フジイのから揚げ』さんとのコラボが実現。もう本当に信じられません。これまでのおれんじカフェのお弁当の歴史を振り返ると…。

おれんじカフェが熊本地震で被災したことからのスタート。熊本地震でめちゃくちゃになった店内。震災で混乱する中、みんなの仕事と所得を確保するため、今まで続けてきたカフェを泣く泣く辞め、弁当事業への転換という苦渋の決断。

まずは、全国から駆け付けた震災ボランティアさんへのお弁当の提供を開始することで、滑り出し好調。しかしながら、ど素人の私たちが作る弁当屋が、そんなに簡単に成功するわけもなく、好調な時期もあっという間に過ぎていく。震災の復興が進むにつれてボランティアさんが減ると同時に注文数も減少。1日の注文数が一桁の日も…。

作れど作れど売れない弁当。でも、みんなの仕事がなくなってしまっているので、弁当作りはとめられない。毎日残った弁当を見て、唖然とする日々。

みんなで協力して弁当を買って帰る毎日。昼ご飯と夕ご飯が同じ日が一体どれだけあったことだろう。

それでも、『おいしいお弁当を作りたい。』と、決してあきらめずにがんばる弁当製造のみんなの姿。



そんな中、ヤマト福祉財団主催の研修会で目に留まった『弁当・配食サービス実践塾』のチラシ。すぐる思いで、応募。見事に塾生に選ばれるも、実践塾で知る。私たちの無知と未熟さ。それでも、夢を叶える。その思いだけで、突き進んできた弁当製造のみんな。

やっと少しずつ。本当に少しずつ。ゆっくりと、ゆっくりと。でも着実に。その姿に、同僚の僕でさえ感動をおぼえる。そして今、1日約15の食近くの弁当を買っていただけるようになった。

今年度は、コロナウイルスの流行にともないおれんじ村の事業の柱『菓子製造・販売、講演活動』が大幅に売り上げを落とした。でも、今までみんなに支えられてきた弁当事業が売り上げを伸ばしコロナ禍の苦しいおれんじ村を救った。作った弁当が売れなくてつらい時期も、決してくさらず、毎日作り続けてくれた弁当製造のみんなに感謝。

さあ、今回の『Big Deal』を成功させ、弁当製造の今年目標『1日25の食』を、必ず一緒に実現しよう。『毎日フルに働いても3万円の給料を、8万円にしたい。』障害年金と働いて得た収入で、親元を離れ地域で暮らせる所得を。そして、その先。自分の思い描く人生を。『恋愛』、『結婚』、『出産』、『子育て』などなど…障害があることで、人生の選択肢をあきらめさせられる社会に対し、『人生の選択ができる所得を補償する。』という僕の夢も、ぜひ、みんなと一緒に実現したい。

僕は支援者にだけはなりたくない。みんなと支えあいながら、ともに働く同僚になる。



🍊 フジイの唐揚げコラボ弁当

熊本のから揚げといえば

～フジイのから揚げさんとコラボ弁当始めました!!～

熊本地震 障害者はどう生きたか!!

熊本地震を体験された2人の体験記がここに。

あの時、障害者はどう生きたか。

ぜひ、みなさまに読んで頂きたい本となりました。

～あれから5年、絶対に読むべき一冊～

『最大震度7の大地震に2回襲われた益城町…緑豊かで穏やかに広がっていた風景は、まるで爆撃を受けたかのように崩壊した。』と始まるブックレット。すでに、読むことをためらう。

5年前の、恐怖を…思い出す。それでも僕は読むことに決めた。一人でも多くの人に、この本を読んでもらうために。

ももかさん。
重症心身障害児。医療的なケアが必要な彼女は、津森小学校の先生との出会いをきっかけに、支援学校ではなく、地域の学校。
『津森小学校』、『木山中学校』へ入学。

子どもたちとの出会いで『なんでこの人死んでると?』とストレートな言葉。しかしそこで、同級生だけでなく、学校を超え地域の子どもたちと育む友情。そして、子どもたちとのつながりが、地域の人たちとのつながりへと拡大していく。

そんな中、2016年4月14日、16日に大地震が熊本を襲った。ももかさんの自宅は全壊、2カ月以上の避難所生活を経て、仮設住宅に入居。玄関からすでに段差だらけの『バリア仮設住宅』。その後、益城町に全国初のバリアフリー仮設住宅が誕生。しかし、『バリア仮設住宅』での生活を続けることを選択する、ももかさんの家族。そこには何が?

地域の人たちとともに、熊本地震を生き抜いた、ももかさんと家族の生き様は、現在の生きにくい『社会』、『職場』、『学校』を変えるメッセージがある。

熊本地震から5年。忘れないでほしい。だから、ぜひ読んでほしいブックレット。

『熊本地震、障害者はどう生きたか』ぜひ、いや、絶対に、読んでください。

追伸

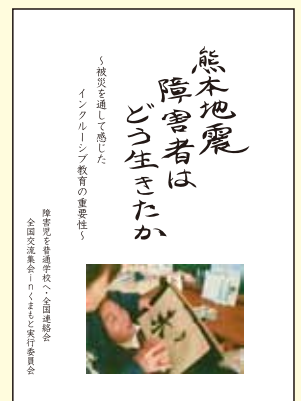
おれんじ村では、去年の暮れ、待望の新社屋ができた。新社屋の構想は、ももかさんと一緒に働く場所を作ることがきっかけだった。しかし、おれんじ村の新社屋が完成する前にももかさんは、帰らぬ人となった。

僕らは、ももかさんに誓う。ちょっと堅苦しいなあ。

いつも通り。そういつも通り。

ももちゃん、

ももちゃんに誓うおれんじ村が、『福祉施設』でなくなる日を、僕らは必ず実現するよ。



熊本を大地震が襲った日!!

18 障害児を普通学校へ・全国連絡会全国交流集会 in くまもブックレット

熊本地震 障害者はどう生きたか

定価 ¥600

送料は、180円(ゆうメールで150円以内)



こんには。新年度になり新社屋も無事稼働開始。
熊本地震から早いもので5年、熊本は元の姿に戻りつつあります。でも、今はコロナ禍で販売も以前と比べて行ける所が限られています。なので売上げが減っています。
まいペースの方が昨年度末で撤退して、長嶺の地にみんなが集まり、再出発となります。新商品のフジイのから揚げさんとのコラボ弁当も販売を開始。子どもの日・母の日のギフトも販売を行います。
ぜひ、みなさまに注文をおまわっています。

IT部E

編集後記